

## 今週の見頃写真

9月3日編集

### ○有峰の風景

9月に入っても有峰は日中夏日が続いていますが、一日毎に朝夕冷涼になり、日が短くなってきたことを実感し始めました。赤く成熟し始めたアキアカネが、特に朝夕猪根平の上空を滑空し始めました。



猪根平テニスコート広場よりご来光の薬師岳を望む  
(猪根平テニスコート広場にて9/3撮影)



有峰湖展望園地より早朝の有峰湖を望む  
(有峰湖展望園地にて9/3撮影)



猪根平テニスコート広場よりビジターセンター、

## 北電記念館、有峰湖を望む (9/3撮影)



有峰森林文化村モニュメントよりビジターセンターと猪根山を望む (折立線にて9/1撮影)



ビジターセンターより朝日に映える猪根山を望む  
(ビジターセンター前にて9/3撮影)

### ○動物編

#### ○ニホンザル

8月29日(土)午後、久しぶりにニホンザルの群れが猪根平芝生広場に戻ってきました。猪根平をテリトリーとするニホンザルの群れは、リーダー中心の30頭程の群れです。ツキノワグマがこのエリアに出没しなくなった矢先のドラスティックな出現となりました。一度草刈りされた場所からシロツメクサやアカツメクサが再生し始めたところです。ニホンザルの群れはゆっくりと移動しながら、時に居座り、シロツメクサ、アカツメクサの展開した新葉や花穂、飛び出してきたバッタ類を追いかけ、捕食していました。芝生広場での滞在時間は約1時半に及びました。この間、仲間同士で毛繕いする個体、時折、キィーキィーと奇声を発しながら、電気柵を飛

び越えて中に入ったり、潜って外に出たりする個体、仲間同士でじゃれ合う個体など、多様な行動を見せますが、食事に費やす時間が大半です。この電気柵内外への往来は自由自在です。日中電気柵が通電していないことを学習しているのでしょうか？ニホンザルは、本来、雑食性ですが、有峰のニホンザルは意外にベジタリアンです。この時期の特異な食性でしょうか？ 今後も有峰におけるニホンザルの生態調査を継続していきます。



シロツメクサを捕食中のニホンザル  
(芝生広場にて 8/29 撮影)



移動中のニホンザルの雄ザル  
(芝生広場前の道路にて 8/29 撮影)



シロツメクサを捕食中のニホンザル  
(芝生広場にて 8/29 撮影)



シロツメクサを捕食中のニホンザル  
(芝生広場にて 8/29 撮影)



電気柵を飛び越えたニホンザル  
(芝生広場にて 8/29 撮影)

## ○昆虫編

### ○スジグロシロチョウ (シロチョウ科)

サワアザミ (キク科) に訪花し吸蜜中のスジグロシロチョウ🦋を撮影しました。



サワアザミに訪花し吸蜜中のスジグロシロチョウ🦋  
(猪根平にて 8/30 撮影)



半日陰でひっそり咲くオオバショウマ  
(折立林道にて 8/29 撮影)

### ○アキアカネ (トンボ科)

9月に入りアキアカネも成熟し始めました。里山(低地)へ戻る準備を始めています。朝夕猪根平の上空を滑空しながら蚊などの昆虫を捕食している雄姿を観察しています。秋雨前線の通過が、里山へ戻るきっかけとなるようです。9月3日は快晴となり、撮影日和となりました。幼いころ唄った「赤とんぼ」文部省唱歌の2番、「秋の空、金色の夕日に浮かぶ赤とんぼ、何百何千、並んで西へ、ただ西へ、流れて行くよ、流れて行くよ。」を思い出しました。



電気柵のポールで静止中のアキアカネ  
(猪根平芝生広場にて 9/3 撮影)

### ○植物編

#### ○オオバショウマ (キンポウゲ科)

有峰では夏緑樹林帯や草原に生える多年草です。茎の先に穂のような白い小花が特徴です。折立林道で撮影しました。和名は葉が大きいことに由来します。

### ○秋の七草咲き始める

秋の七草は、萩(ハギ)、桔梗(キキョウ)、葛(クズ)、藤袴(フジバカマ)、女郎花(オミナエシ)、尾花(オバナ/ススキ)と撫子(ナデシコ)です。奈良時代の歌人、山上憶良が万葉集において選定した秋を彩る植物として親しまれています。

猪根平で萩と尾花とのコラボレーションを撮影しました。風情を感じます。



萩と尾花のコラボレーション  
(猪根平にて 9/1 撮影)